

# 防災協働社会って何？



**防災協働社会**。それは地域の人たちが互いに連携・協力しながら災害被害を軽減するための取組をする社会です。地域では多くの人たちや組織が、すでに様々な防災の取組を行っていることを、皆さんはご存知でしょうか？

まずは、地域にどのような人たちがいて、どのような取組をしているのかを見てみましょう。

## 自主防災会

自主防災会がどんな取組をしているかは、下の知立市牛田町自主防災会と安城市榎前町自主防災会の取組を参考してください。

**こんな取組をしています！**  
(平成19年度愛知県 防災(地震)に関する意識調査より)

**どんな役割？**  
自主防災会は、近所の人たちが協力し合い「自分たちのまちは自分たちで守ろう」という地域の防災活動を行うための自発的な防災組織です。町内会や学区など皆さんの生活に密着した単位ごとに組織されることが多く、地域防災にとってもっとも基礎的な存在であると言えます。役割としては次のようなことを行っています。

(平常時)  
防災知識の普及、地域内の防災環境の確認、防災用資機材の整備や点検、防災訓練の実施など。

(災害時)  
出火防止・初期消火、救出救護活動、避難誘導、給食給水など。

愛知県ではほとんどの地域に、自主防災会が組織されています。(平成19年度愛知県の自主防災会組織率83%)しかし、アンケートの結果、自主防災会の実施する防災訓練等の活動に参加したことがある人の割合は約40%と、まだまだ高くないことが分かっていきます。



## 消防団

**こんな取組をしています！**  
(平成20年度開催)で優勝しました。

**どんな役割？**  
消防団は、別に本業を持つ一般の地域住民でありながら地域の安全のために地域防災の中核として活動しています。災害時には消防署などと連携して、消火活動や救助・救出活動や、平常時には火災予防訓練や応急手当講習会等の防災啓発活動を行っています。地域を熟知しているゆえに、災害時には早期の消火活動や的確で迅速な救助・救出活動が期待されているのです。

**こんな取組をしています！**  
知多市消防団は、火災や風水害などの各種災害への出動はもちろん、平常時には放水訓練、消防資機材の点検、地区のお祭りの警備など地域に密着した活動をしています。女性団員も5名在籍し、特に地域住民への応急手当の普及という役割が期待されています。

また、大規模災害時には、消防団OBで構成される防災支援隊が消防団をバックアップする体制をとっていることも特徴のひとつです。

日ごろの積極的な訓練の成果を活かし、消防用機器器具の取扱いや操作方法の正確さやスピードを競い合う「第53回愛知県消防操法大会」



知多市消防団：熟練した消防機器器具の取扱

取組紹介ホームページに詳細を掲載していますので、そちらも参考にしてください。

## 知立市牛田町 自主防災会



多くの地域住民や様々な組織が参加した防災訓練



(左)牛田町自主防災会会長 松本さん (中)防災隊長 斉藤さん (右)副隊長 坂田さん

知立市の牛田町自主防災会は「防災隊」という防災の実働部隊が活動の鍵となっています。会長の松本さん、防災隊長の斉藤さん、副隊長の坂田さんにお話を伺いました。

**牛田町自主防災会の特徴** 町内会(自主防災会)に「防災隊」という消防団OBで結成された組織が存在します。町内会の区長(自主防災会の会長)始め役員は2年ほどで代わってしまいますが、それが自主防災の活動が活発化しない原因と考えました。そこで、平成18年3月に防災隊を結成しました。防災隊のメンバーは年度ごとに代わらないため、牛田町自主防災会は継続的な取組ができています。

**取組** 2年前に地域のネットワーク作りを目的とし、要援護者支援・誘導訓練を取り入れた防災訓練を実施しました。この訓練は、450人もの町民が参加した非常に大規模なものでした。訓練の計画段階から、行政・老人クラブ・民生委員・中学校・消防団・社会福祉協議会などと訓練内容を検討する会議を繰り返し、それぞれ顔の見える関係を築くことができました。

その後は、そのネットワークを活用し、民生委員と連携して災害時要援護者支援台帳を整備したり、町内各世帯へ配布する防災マップを作成しました。

最近では、町内の家庭を個別に訪問して、耐震改修・診断について説明をし、必要に応じて無料耐震診断を案内する取組を実施したところです。

**活動の秘訣** 日ごろから防災のことだけをやっているわけではなく、町民祭りなどの地域のイベントに積極的に関わっている結果、地域との繋がりができて防災の活動も円滑にできるようになっていると思います。

地域の取組 紹介